

物価高騰対策 伊丹市の事業内容

昨年末に臨時国会で可決された物価高騰対策事業。

12月議会最終日に議決され、本市の事業内容が決まった。



①バニラ Visa ギフトカード配布（市内全世帯）

1人あたり6千円分のプリペイド式カード。世帯人数分金額を1枚にまとめ、Visa 加盟店で利用可能。2月から簡易書留で約1ヶ月半かけ郵送予定。有効期限は9月30日。期限が過ぎると残高はゼロになるのでご注意を。

②水道・下水道基本料金を減免（市内全世帯・事業所）

1期分（26年2・3月分）を減免。一般的な家庭の場合、2,442円安くなる。



③子育て応援手当（子育て世帯／国の施策）

0歳～高校生年代の子ども 1人あたり2万円を養育する父母等に支給。

市役所のカスハラ対策が急務

顧客などからのクレーム・言動のうち、特に「悪質で労働者の就業環境が害されるほどの行為」を指すカスタマーハラスメント（カスハラ）。

昨年9月、市職員にアンケートした結果、直近3年間でカスハラを受けたことがあるとの回答が43%。その頻度は3回～10回程度が最も多く、電話対応時が47%、窓口対応時が41%と全体の87%が直接対応の中で発生していることが分かった。

本年10月から事業主にカスハラ対策が義務化される。市長は「毅然としたルールを策定し、前面に立って対策することが必要」と語った。



特殊犯罪が止まらない

伊丹警察によると、2023年の市内特殊犯罪認知件数は60件・被害額約4千2百万円だったが、2024年は認知件数49件・被害額約1億4千万円、そして昨年は10月末時点で認知件数54件・被害額約1億6千万円と、既に前年を上回っている。

従来の特殊犯罪は、固定電話を使うケースが多かったため、被害者は65歳以上が全体の約8割を占めていた。ただ近年はスマホを使い、ビデオ通話やSNSが利用されるケースが増加したこともあり、幅広い世代に被害は広がっている、という。

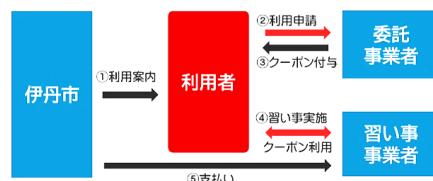
市は多様化・巧妙化する犯罪手口の周知・啓発に努めている。



質問 報告

中田市長の公約施策「子どもの習い事応援事業」を考える

子どもの可能性を広げるには 「習い事」が不可欠なのか？



子どもの個性を伸ばし、可能性を広げる多様な学びや体験の機会を創出・確保を目的とした新規施策。私も目的には大賛成だ。

ただ、それがなぜ「習い事」なのか

今回の一般質問は、このテーマに絞っておこなった。市長と私の考え方の違いが可視化された50分。その主な論点は以下の通り。

論点① 市は学校教育・環境の充実を優先すべき

子ども・保護者が多様化する中、学校現場の課題は山積している。公教育の充実が優先では、との質問に、「行政の最重要の責務」としつつ、「学校外教育の充実にも取り組む」と市長は答弁。

子どもの習い事応援事業

いわゆる「教育バウチャー」。習い事代金を市が補助する。対象は小学生就学援助受給世帯約1,250名。本年4月開始予定。電子クーポン月8千円を給付。予算は約5千万円。

先行他市では、その大部分が学習塾代に使用されている。



論点② なぜ「習い事」なのか

市長は「出来る限りすべての子どもたちに、習い事に触れて頂けるような環境を実現させていきたい」と言う。なぜ習い事にこだわるのか、私は理解できなかった。

論点③ 先に実態調査が必要ではないか

施策実施の根拠は、市長の経験と関連文献、及び市民の声とのこと。なぜ急ぐのかを問うと、「多くの皆さまが少しでも早く、とご期待頂いている」と強弁した。

「社会で子どもを育てる」発想を

そもそも子どもが望んでいるのか、送迎可能な家庭環境か、など論点は多い。

今回の「子どもの習い事応援事業」は“福祉施策の一環”として理解する。

ただ今後は、子育てを家庭・保護者の「自己責任」にするのではなく、行政と地域が協働して「社会で子どもを育てる」発想が大切ではないか。

すべての子どもが、自分の意思で参加でき、多様な学びや体験ができる施策と一緒に考えていきましょう、と呼びかけて質問を終えた。



← 質問動画

◆◆ 質問を終えての感想 ◆◆

中田市長の答弁で何度か出てきた「市長公約だから!」、「市民が期待しているから!」というフレーズ。心情は分かる。ただ学校現場の環境充実に加え、膨らみ続ける統合新病院事業費や、中学部活動地域移行の体制整備など、優先事項は明白押し。市のトップとして大局的に物事を考えて欲しい、と願う。

フォト・ダイアリー ~日常の一コマ~



[写真説明 左上から時計回り]

- “関西演劇界の聖地”アイホールは今年3月で閉館。伊丹の魅力のひとつが無くなる。失ってから気づくものの大きさを実感した観劇。
- 神戸朝鮮初中級学校体育館でシンポジウム。阪神・淡路大震災時、地域で朝鮮学校が果たした役割。人のつながりと助け合いの話を聞く。
- 毎年恒例、阪神土建労働組合と伊丹市の懇談会。
- 今年も三田ハーフマラソンに参加。結果は？ スタート前の写真でご想像を。



少数意見を切り捨てる 定数削減が可決・成立

12月議会最終日、3会派連名で「議員定数削減議案」が出された。多様な民意が反映しにくい、少数意見の切り捨てになると反論したが、賛成多数で可決、成立した。次回の市議選(2027年4月)から議員定数は2人減の「26」になる。

市政に対するご意見や疑問、お聞かせください。
困ったこと、悩んでいること、一緒に考えましょう。

大津留 もとむ
伊丹市議会議員 おおつる 求

090-8122-7114 <https://ootsru.com/>



【プロフィール】1971年福岡県大牟田市生まれ。稻野町在住。
■近畿大学法学部法律学科卒 ■国際交流NPOスタッフとして「地球一周の船旅」参加 ■中川智子衆院議員(元宝塚市長)秘書 ■建設従事者の組合・阪神土建労働組合書記局に入局 ■2015年市議選に社民党公認で当選。19年再選、23年3選 ■会派「フォーラム伊丹」所属 ■稻野自治会役員 ■防災士

■命と暮らしの大切にされ、多様性を認めあい、差別の無い、「やさしい社会」実現に向けて、一歩でも前に進んでいいたい2026年。できるの？ 必ずやる！

■命と暮らしの大切にされ、多様性を認めあい、差別の無い、「やさしい社会」実現に向けて、一歩でも前に進んでいいたい2026年。できるの？ 必ずやる！

■敗戦 80年、日本社会党結成 70年、日韓国交正常化 60年、サザエさん放送開始 50年、男女雇用機会均等法成立 40年、阪神・淡路大震災 30年、JR福知山線脱線事故 20年、安保関連法案の強行採決から 10年だった2025年。

年始雑感